

交通網問題対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和5年11月17日(金)
午前9時25分 開会
午前10時24分 閉会
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 太田 智博
副委員長 荒木 慎太郎
委員 芦田 竹彦、清水 寛、
須山 泰一、芹澤 正志、
松井 正志
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 (別紙のとおり)
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 次長 坂本英津子、主事 菅谷祐一
- 8 会議に付した事件 (別紙のとおり)

交通網問題対策等調査特別委員長 太田 智博

交通網問題対策等調査特別委員会 次第

日 時：2023年11月17日(金) 9:30～

場 所：第1委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

正副委員長 → 各委員 → 当局 → 事務局

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について

【都市整備部】 建設課、都市整備課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項（案）

(3) その他

委員会の席次について

5 閉 会

交通網問題対策等調査特別委員会名簿

【委員】

2023年11月17日現在

職 名	氏 名
委員 長	太 田 智 博
副 委 員 長	荒 木 慎 大 郎
委 員	芦 田 竹 彦
委 員	清 水 寛
委 員	須 山 泰 一
委 員	芹 澤 正 志
委 員	松 井 正 志

【当 局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名
都市整備部長	澤田 秀夫	城崎振興局 地域振興課参事	橋本 郁夫
建設課長	富森 靖彦	竹野振興局 地域振興課参事	小林 昌弘
建設課参事	堀田 政司	日高振興局 地域振興課参事	上野 和則
都市整備課長	久田 涉	出石振興局 地域振興課参事	川崎 隆
都市整備課参事	堂垣 俊裕	但東振興局 地域振興課参事	小川 一昭

10名

【議会事務局】

職 名	氏 名
議会事務局主事	菅谷 祐一
議会事務局次長	坂本 英津子

交通網問題対策等調査特別委員会設置要綱

1 設置の目的

豊岡市の基幹交通網の整備をはじめ、市民生活の利便性等を高めるための公共交通機関の諸課題等について調査を行うため、地方自治法第109条及び豊岡市議会委員会条例第5条の規定に基づき、特別委員会を設置する。

2 委員会の名称

交通網問題対策等調査特別委員会

3 委員の定数

8名

4 付議事件

- (1) 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、但馬空港及び鉄道に関する調査研究等
- (2) 路線バス等地域公共交通に関する調査研究等

5 委員会の設置期間

調査完了の時期まで

6 調査の経費

議会費の中で議長の定める額

7 その他

設置期間中、議会の閉会中も継続調査できるものとする。

交通網問題対策等調査特別委員会重点調査事項（案）

2023. 11. 17

1 高規格道路に関する事項

- 北近畿豊岡自動車道の事業推進に関する事
- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の事業推進に関する事

2 但馬空港に関する事項

- 空港の利用促進並びに支援体制に関する事
- 東京直行便の実現に向けた事業推進に関する事

3 路線バス等地域公共交通に関する事項

- 市内公共交通網の充実並びに利用促進に関する事

4 鉄道交通に関する事項

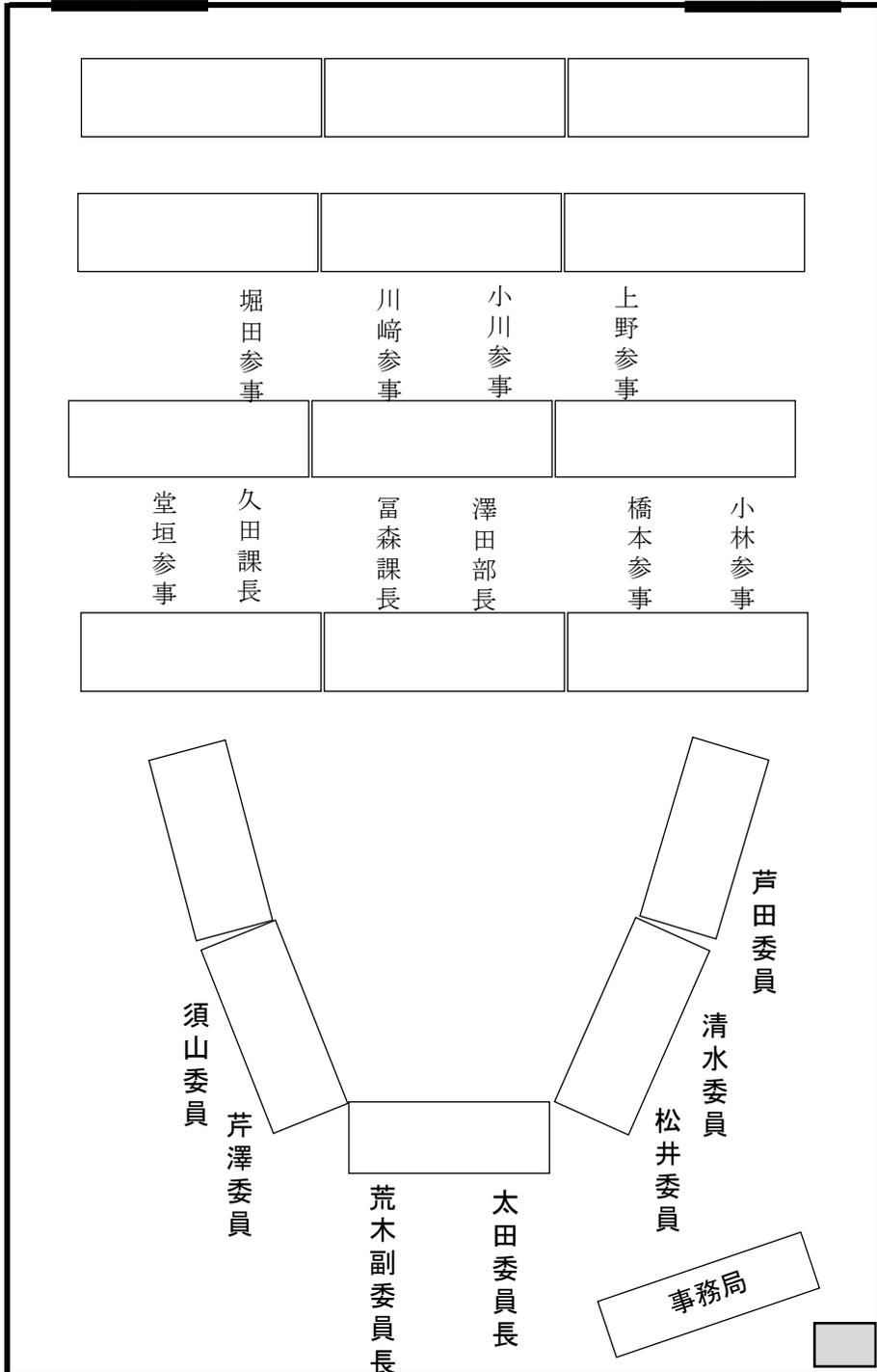
- 鉄道交通の維持・存続並びに利用促進に関する事

2023年度 交通網問題対策等調査特別委員会 席次
(第1委員会室)

廊下

出入口

出入口



窓

午前9時25分開会

○委員長（太田 智博） 皆さん、おはようございます。

定刻より若干早い時間ではございますが、皆さんおそろいでございますので、ただいまから交通網問題対策等調査特別委員会を開会いたします。

それでは、まず、委員長挨拶ということで、さきの役員改選で委員長に就任をしました太田智博でございます。交通網問題対策特別委員会、2回目になります。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、協議事項に入りますまでに、今回は役員改選後初めての委員会でございますので、ここで出席者の皆さんに自己紹介をいただきたいと思っております。

委員長、副委員長、各委員、都市整備部、建設課、都市整備課、各振興局地域振興課の順でお願いし、最後に、事務局からもお願いをしたいと思います。

それでは、私から自己紹介をさせていただきますと思います。

先ほども挨拶をさせていただきましたけど、太田と申します。どうぞこの1年間よろしくお願いいたします。

○委員（荒木慎太郎） 副委員長に任命されました荒木慎太郎です。初の副委員長職で何かとご迷惑をおかけするかと思いますが、1年間よろしくお願いいたします。

○委員（芹澤 正志） 芹澤です。よろしくお願いいたします。

○委員（須山 泰一） 須山です。よろしくお願いいたします。

○委員（松井 正志） 委員の松井正志です。よろしくお願いいたします。

○委員（清水 寛） おはようございます。清水です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（芦田 竹彦） おはようございます。芦田でございます。初の特別委員会ということで、よろしくお願いいたします。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 都市整備部長の澤田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○建設課長（富森 靖彦） 建設課長の富森です。よろしくお願いいたします。

○建設課参事（堀田 政司） 建設課参事の堀田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○都市整備課長（久田 渉） 都市整備課長の久田です。よろしくお願いいたします。

○都市整備課参事（堂垣 俊裕） 都市整備課参事の堂垣です。よろしくお願いいたします。

○城崎振興局地域振興課参事（橋本 郁夫） 城崎振興局地域振興課参事の橋本です。よろしくお願いいたします。

○竹野振興局地域振興課参事（小林 昌弘） 竹野振興局地域振興課参事の小林です。どうぞよろしくお願いいたします。

○日高振興局地域振興課参事（上野 和則） 日高振興局地域振興課参事の上野です。どうぞよろしくお願いいたします。

○出石振興局地域振興課参事（川崎 隆） 出石振興局地域振興課参事の川崎です。どうぞよろしくお願いいたします。

○但東振興局地域振興課参事（小川 一昭） 但東振興局地域振興課参事の小川です。よろしくお願いいたします。

○事務局主事（菅谷 祐一） 議会事務局総務係主事の菅谷です。よろしくお願いいたします。

○事務局次長（坂本英津子） 同じく事務局、坂本です。よろしくお願いいたします。

○委員長（太田 智博） もう1点連絡をさせていただきます。委員会中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてから、マイクを使用し、発言の最初に課名と名字をお願いをいたしたいと思います。

それでは、協議事項に入っていきたいと思います。

まず、（1）委員会所管事項の事務概要についてを議題といたします。

委員の皆さんは、Side Books上のフォルダー、交通網問題対策等調査特別委員会、2023年11月17日の中に配信をしておりますので、資料をご確認ください。

それでは、建設課、都市整備課の順で説明をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 建設課からは、2件の事務概要についてご説明をさせていただきます。

まず、3ページ、4ページをお開きいただきたいと思います。北近畿豊岡自動車道の事業促進です。

北近畿豊岡自動車道は、全体延長約73キロのうち、現在66キロが供用中となっております。高速自動車交通網の空白地帯であります但馬地域の発展を促すためには、引き続き全線の早期整備が課題となっております。

全線開通に向けた但馬の熱い思いを強く訴えるための早期実現促進大会を開催したり、要望活動によってその必要性を強くアピールしてまいります。さらに、早期完成に向けた事業推進を図るために、国、県、関係機関との連携を一層強化し、地元調整などに取り組んでいきます。

それでは、概要及び進捗状況です。

まず、1番目の豊岡道路です。但馬空港インターチェンジから豊岡出石インターチェンジまでの2キロの区間となっております。こちらにつきましては、既に令和6年の秋、来年の秋に開通予定ということで国のほうから発表をされております。

2023年度につきましては32億円の予算がついておりまして、道路改良工事やトンネル、それから橋梁の上部工等の工事を進められております。トンネルにつきましては、2基ありますが、既に2基とも貫通しておりまして、佐野トンネル、佐野にあるトンネルですが、こちらが今度の日曜日、11月19日の日曜日に貫通を祝う会っていうのが開催予定ということになっております。それから、橋梁につきましては全部で6橋ありますが、既に4橋が完成しておるといふふうにお聞きをしております。

続きまして、豊岡道路のⅡ期です。豊岡出石インターチェンジから仮称豊岡北ジャンクション・インターチェンジまでの5.1キロの区間となっております。

こちらにつきましては、2023年度は2億5,000万円の予算がついております。今年度は、地質調査、それから橋梁の予備設計、それから用地買収などが行われております。用地買収につきましては、国から市のほうが受託をしております。交渉であったりというようなことを今、市のほうで進めさせていただいております。用地買収は、戸牧、岩井、宮井の各区が今年度は対象となっております。関係地権者数は全部で46名おられます。市が受託してる面積については約3万4,000平方メートルということになっております。11月15日現在ですが、46名のうち16名の方と既に契約を結ばさせていただいております。

続きまして、3番の早期実現大会です。こちらは、8月5日に但馬3市2町、800人規模で開催させていただいております。議員の皆様方にも参加していただきまして、誠にありがとうございます。

それから、次の4ページになりますが、要望活動ですが、国交省の本省、それから近畿地方整備局、それから財務省等に要望活動を行っております。10月25日、それから11月9日に要望活動を実施いたしました。国のほうからは、豊岡道路の令和6年秋に必ず開通させますということや、あと残る区間についても予算をきっちり確保して、着実に進めていきますということなど、前向きな回答をいただいております。

続きまして、飛びますが、6ページをお開きいただきたいと思います。山陰近畿自動車道の事業促進です。

環日本海時代を展望した交流促進型広域道路として位置づけられておりまして、鳥取県東部地域、京都府北部地域及び兵庫県の但馬地域の都市的連携を可能にし、50万人を超える地域集積圏の形成を促進するものであり、早期の整備が課題となっております。

全線開通に向けた但馬の熱い思いを強く訴えるために、先ほどの北近畿豊岡自動車道と同様ですが、早期実現促進大会の継続開催、それから要望活動によってその必要性を強くアピールをしてまいりま

す。また、未事業化区間がありますので、それらの事業化、それから全路線の早期整備に向けて、より一層積極的な活動を展開してまいります。

概要及び進捗状況ですが、1番の浜坂道路Ⅱ期につきましてはそこに記載のとおりですので、ご清覧をいただきたいと思います。

2番の竹野道路は豊岡市内の事業区間です。こちらにつきましては、今年度4億3,200万円の予算がついております。地質調査、それから道路の詳細設計、橋梁の予備設計等が行われております。なお、用地買収につきましては、来年度、令和6年度から実施予定ということで聞いております。

続きまして、3番の城崎道路です。こちらは、今年度から国による権限代行事業ということで事業化となっております。予算につきましては5,000万円ということで、調査等が進められておるといふふうにお聞きをしております。

続きまして、5番目の早期実現促進大会ですが、こちら先ほどの北近畿豊岡自動車道と同時開催ということで、8月5日に開催をさせていただきました。

また、6番の要望活動につきましても、北近畿豊岡自動車道と同時に、10月25日、11月9日に実施をさせていただいております。国のほうからも、引き続きしっかりと予算を確保したいというようなことで、前向きな発言をいただいております。

7番のその他ですが、山陰近畿自動車道整備推進決起大会、これ、東京で毎年行っている大会なんです、11月15日に開催予定だったんですが、ちょっと事情により延期となっております、できておりません。

それから、ちょっと1ページ戻りますが、5ページには、北近畿豊岡自動車道と山陰近畿自動車道の早期整備の要望内容ということで上げさせていただいております。ページの下側になりますが、要望事項ということで、北近畿豊岡自動車道についてはそこに記載の2項目、それから山陰近畿自動車道につきましては4項目の要望事項を中心に、国、県のほうに要望をさせていただいております。

建設課からは以上です。

○委員長（太田 智博） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） それでは、都市整備課からは3件説明をさせていただきます。

7ページをご覧ください。空港の利用促進と利便性の向上について、現況と課題、それから基本方針についてです。

コウノトリ但馬空港は1994年の開港以来、豊岡市をはじめ、但馬地域の活性化に大きく寄与してきております。昨年度、2022年度の利用者は、前年度と比較して回復傾向にはあるんですが、依然としてコロナ禍前の水準までは回復しておらず、結果的に対前年度比8,570人増の29,616人の結果となっております。今年度も引き続き可能な範囲での利用拡大を図りつつ、但馬-伊丹間の年間目標利用率70%とするターゲット70、継続して取り組むこととしております。

次に、概要についてです。現在の進捗状況について説明をさせていただきます。

まず、大項目1つ目の運賃助成や小学校社会見学支援による利用促進につきましては5つ上げてございまして、航空運賃の助成事業、小学生飛行機体験搭乗事業、「はたちになる君へ」と題しまして、新成人の記念事業と小学校の社会見学事業と、最後、その他としまして、中学、高校、大学生への無料配付券など、利用促進事業を実施しております。現在のところの合計の利用者数は7,024件となっております。ちなみにこの4月以降の利用率についてですが、4月以降、各月とも50%をクリアしております、特にこの8月から10月までについては、全て68%を超えてまして、平均利用率も61.3%と、ほぼコロナ禍前までの水準に回復をしてきておる状況です。

次に、大項目2つ目です。関係機関や団体と連携した東京直行便に向けた取組ということで、例年のことではございますが、7月の21日に鹿児島の日本エアコミューター株式会社並びに東京の日本航空株式会社さんのほうに要望会を実施しております。

それから、最後の3つ目ですけれども、他団体や航空会社と連携したPR活動の実施についてということで、JALと本市の共同プロモーションということの新たな取組で、10月の28日には大阪の市内でディナーイベントを開催しております。こういった取組を実施することによって、本市が誇る魅力的な農産物や海産物をJALの持つブランド力を生かして効果的にPRを仕掛けることで豊岡の知名度も図られ、今後の但馬-伊丹間のさらなる利用促進につながるもと考えておりますので、引き続きJALと共同したイベントを開催したいというふうに考えております。

次に、8、9ページをご覧ください。バス交通の充実と利用促進について、同じく現況と課題から基本方針についてです。

地域公共交通の基盤であるバス交通について、今年度も継続して、国、県と協働した運行に係る経費の補助を行い、主要バス路線の維持確保に努めます。また、路線代替交通として運行してまます市営バス「イナカー」については、現在6路線で継続運行を行っておりまして、沿線住民の外出を支援しております。それから、地域主体交通のチクタクにつきましても、今年度も引き続き出石と但東、4つの地域で継続運行し、交通弱者の日常生活を支えます。今後も引き続き地域の実情に応じた新たな交通モードの検討を進め、公共交通の基盤であるバス交通の持続推進を図ることとしております。

引き続き概要についてです。こちらに進捗状況を説明させていただきます。

まず、一番最初、大項目1番目の主要バス路線の維持を図るための運行補助の実施につきましては、例年のことではありますが、記載のとおり各路線及び車両購入に係る国県市ごとの補助金の申請事務を進めているところです。

2つ目です。地域の実情に応じた新たな交通モードの検討につきましては、竹野南地区の新交通モードの実証実験について記載をしております。詳細な実証運行の内容は(ア)から(エ)に示しておりますが、ちなみにこの10月末での利用者は延べ59

7人となっております。あくまでも実証実験であり、今後も引き続き地元の方との協議を重ね、来年度中には最終的な交通モードの決定をしたいというふうなことを考えております。

それから、3つ目です。市街地循環バスのコバス、市営バス「イナカー」、地域主体交通チクタクにつきましては、記載のとおり、路線や地域で運行しております。

次の4つ目です。運行事業者、地域と協働したモビリティーマネジメント及び利用者の確保に向けたイベント実施については4つ上げてございます。まず、アの竹野地域における地域交通の在り方勉強会の開催につきましては、現行の路線バス、それから、イナカー竹野海岸線、竹野南のデマンド交通、デマンドタクシーの実証運行を含め、地域における交通を取り巻く環境が変化しつつある中、将来を見据え、地域の実情に合った持続可能な地域交通の在り方について、地域の皆さんと考える場という機会を持って、6月以降、3回開催をしております。

次のイの職員の管内移動に係る公共交通利用回数とウのノーマイカーデーについては記載のとおりです。この中のウのノーマイカーデーにつきましては、昨年度に比べ販売数が1.5倍となっております、今後さらなる利用者の拡大に期待をしておるところです。

また、次のエの路線バス等キャッシュレス化の実証実験事業につきましては、将来のバスと鉄道相互のキャッシュレス化に先立ち、今回はバス事業に特化した距離別や定額運賃、通勤、通学の定期券、加えまして、観光施設の入場料のキャッシュレス化を一部のバス路線で実証実験をするものです。これは、今月の15日から来年の2月14日まで、3か月間の期間限定で行います。具体的には、事前に決済方法を設定したスマートフォンでバスやお店に設置した専用のタグにタッチすることで乗降できるというものになっております。

バス交通は以上です。

10ページをご覧ください。最後に、鉄道交通の利用促進についての現況と課題、同じく基本方針に

ついてです。

通勤、通学、通院などの市民の日常など、交流人口の拡大や災害時のリダンダンシー機能の確保の観点から、鉄道交通は必要不可欠な重要な交通基盤であると考えております。しかしながら、自家用車の普及や沿線人口の減少、利用者は年々減少傾向にありまして、極めて厳しい状況にあります。このような状況の中、JR西日本は、大量輸送としての鉄道の特性を發揮できないとする輸送密度や経営状況を公表し、最適な地域公共交通をつくり上げていくための課題を提起し、県と地方沿線自治体は路線ごとに現状と課題を踏まえた利用促進策の方向性を取りまとめました。

それから、京都丹後鉄道についてですが、維持活性化を推進するため、2015年の4月から、運行管理部門と試算管理部門、分けて経営する、いわゆる上下分離方式が導入をされまして、沿線自治体が連携し、引き続き利用者の利便性向上対策、運行事業者への支援を行うものです。

次に、概要についてです。まず、大項目1つ目、JRローカル線の維持存続及び利便性向上のための機運醸成と要望活動につきましては、(1)の山陰本線の維持存続に向けた取組についてです。

まず、アのJR山陰本線利用促進創出ワークショップの開催。このワークショップにつきましては、観光協会、それから住民団体に加えまして、芸術文化観光専門職大学の学生たちで構成をされております。この5月以降5回開催され、6班の編成でワークショップを進めて、延べ129名の方に参加をいただいております。中でいろんな案が提案をされまして、それぞれの利用促進策がこのたび取りまとめられたということです。この都市整備課、本課としましても、次年度より、この中から即効性の高い利用促進策を取り組んでいきたいと考えております。

次のイの乗って守ろう！竹野駅ペイです。これは、先ほどの構成メンバーの中の一つでもある竹野地域公共交通利用促進委員会がこのワークショップの中でいろんなヒントを得る中で発案をされた取

組です。具体的に言いますと、購入した切符の購入金額の2割を、竹野地内のみですけれども、そこで使用できるクーポン券を配付するものです。この取組は、第一弾として、この8月から1万枚発行して販売開始をしましたが、約2か月で完売となりまして、引き続き10月より、さらにまた1万枚を追加する第二弾ということで今実施中です。非常に好評だとの報告も受けており、それぞれの発行枚数等は記載のとおりです。

それから、ウとエのデジタルスタンプラリーでありますとか、駅周辺活性化事業につきましては、県が事務局となっていて行っている但馬地域鉄道利便性向上対策協議会が実施した事業を記載しております。

次に、オです。竹野駅の乗車券簡易委託販売事業、これも例年の事業なんですけれども、コロナ禍前の水準には回復してないんですけれども、先ほど言いました竹野駅ペイの関係もありまして、8月以降は急速に販売枚数が伸びており、今後にも期待をしているところです。

最後に、カの協議会で協議・検討についてですが、これは、昨年度のJRの赤字ローカル線の公表を受けまして、県を中心に利用促進策が検討されるJRの赤字ローカル線の維持・利用促進協議会、ワーキングチームというのが組織されまして、今後の取組方針や利用促進策等が取りまとめられました。その会議の中でもこの検討協議会は単年度で終わるだけではなく、複数年かけて取り組んでいくことが必要というようなことの方向性が示されたため、関係する会議の名前をワーキングチームから山陰本線利活用協議会というふうに改めまして、それぞれ担当者会、それから首長会、最終的な利活用の協議会ということ、段階的にその取組に沿って継続検討をしておるところです。

次に、(2)、(3)、(4)につきましては、記載のとおりでございますが、(2)の10月の23日に実施しましたJR西日本への要望活動につきましては、昨年度まで福知山と大阪と2回に分けて行っていたんですが、JRの組織再編に伴いまして、

今年度より神戸の兵庫支社のほうへ要望場所が変更となっております。

最後、大項目の2つ目です。京都丹後鉄道の運行支援の(1)京滋支社への要望活動につきましては記載のとおりです。

それから、(2)の施設整備、運営支援等の補助につきましても、現在、補助金の申請事務を進めておるところです。

(3)のその他につきましても、記載のとおりでございます。

都市整備課の説明は以上です。

○委員長(太田 智博) 説明は終わりました。

質疑、意見等はありませんでしょうか。

清水委員。

○委員(清水 寛) ちょっと何点かあるんですけども、1点ずついきたいと思うんで、まず、1つ目です。

建設課のほうで、今、北近の関係で大分進捗してきてるっていう話ではあるんですけども、ちょっと1点気になるのが、旧の清掃センターがこの工事にかかるというような話で、現状今どようになっているのかっていうことと、当然もともとが清掃センターということですから、土質とか、そういうのの検査とかっていうのも今後されていくのか、また、そういうのが今後の工事の計画に引っかかるとか、何かそういうことっていうのは想定されているのか、その点についてちょっと分かる範囲で教えていただければと思います。

○委員長(太田 智博) 建設課長。

○建設課長(富森 靖彦) 旧清掃センターのところ、一部かかるということで、清掃センター等の取壊し等があります、お願いっていうこと、それがかかるということは確認できておりますけど、土質がどうこうっていうことまでは、ちょっと我々そこまで把握はしておりません。

○委員長(太田 智博) どうぞ、清水委員。

○委員(清水 寛) 現状あそこの土地というのは、今は豊岡市のものではない、向こう、もう買収済みという形になってるんですか。

○委員長(太田 智博) 建設課長。

○建設課長(富森 靖彦) 豊岡市のものですね。

○委員長(太田 智博) 清水委員。

○委員(清水 寛) そうしましたら、今からまたずっと話が進んでいくというような認識でよろしいですか。

○委員長(太田 智博) 富森課長。

○建設課長(富森 靖彦) そのとおりです。

○委員(清水 寛) いいですか。

○委員長(太田 智博) いいです。

○委員(清水 寛) 立て続けで、すみません。次、都市整備課のほうに2点お伺いするんです。

1点は空港の関係で、先日、県のほうが航空産業のトピックスセミナーみたいなのをオンラインでされてたんです。その中で、実は飛行機の利用率が、特にビジネスは80%までコロナ前に回復してますとはいわれたんですけども、実はこれは1年前から80%に回復してるということなんです。今なお80%ということは、もうビジネスの利用というのは恐らく戻ってこない。これはなぜかっていうと、今はオンラインで会議をするっていうことにシフトしてしまってる部分っていうのが大分あるだろうっていうような話をされてました。これ、ジェイエアの社長がされてたんですけども、そういう意味では、今の但馬空港の利用促進はビジネス向けを一生懸命されてる部分っていうのもあるとは思いますが、少し考え方を考えていく必要があるのかなと思うんですけど、その点についてどのようにお考えでしょうか。

○委員長(太田 智博) 久田課長。

○都市整備課長(久田 涉) 今、委員言われますように、そのとおりなんですけども、昨年度の利用者は、今さっき言いました2万9,000人程度だったものですから、昨年度の12月より、中学、高校、大学生の無料券配付、あとは、子供さんの親御さんと一緒に行けるようなことを新たに考えました。今年につきましては、今の現時点では約3万8,000人の利用者がありまして、予算の関係もありますんで、去年はそういったことを実施しておりますけ

ども、今年につきましては、そのことの実施するかどうかは未定ということで考えております。以上です。

○委員長（太田 智博） 清水委員。

○委員（清水 寛） 利用がより多くなるってことが本来の目的ではありますし、そういう意味では、利用促進協議会などで恐らく様々な取組というのは一体として考えられる話かなと思いますけども、この地域でいえばビジネスよりもやはり観光というところが今非常に伸びてるっていう部分もありまして、ある路線では140%ぐらいまで伸びてるというんで、それはやはり観光を非常に多く取り込んで地域が回復が非常に高いということもありましたので、ぜひ観光について、特にインバウンドとか、そういうことに関しては、今のJACとかHACとかっていうことで、エアラインごとに名前が違ったのが、今は全部JALに統一してるっていう話なんですけども、それは海外から予約をするときに、もう全部ワンストップでいけるためにJALに統一したっていうようなお話もありましたので、やはりそういうところもうまく活用して、観光、特にインバウンドでっていうことをぜひ検討していただきたいと思います。これは要望です。

もう1点、これは直接まだこの中に出てきてない話ではあるんですけども、国のほうでは今ライドシェアについて非常に取組がもう実現にかなり近いところまで話がされてるっていうようなことを報道なりで聞くんですけども、その点について、豊岡市は今どのようにお考えでしょうか。

○委員長（太田 智博） どうぞ、久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） その意味がちょっと僕は分からないもので。

○委員長（太田 智博） 清水委員。

○委員（清水 寛） そのお答えで大体分かった感じなんですけども、恐らく外国でいうところのウーバーとか、そういうので、個人が持つとられる車に要は相乗りをしていくというか、そういうようなサービスで、恐らく外国ではもうこれがほぼほぼメインになってきてるっていうような話なんです。いわ

ゆる養父の白タクじゃないんですけども……（「やぶくるか」と呼ぶ者あり）やぶくるが限りなくそれに近いような感じではあるんです。その取組を国のほうは今非常に推奨しようというようなことでされて、今の交通モードでいえば、今までにない新しいモードが国のほうから進められるということになると、恐らく、介護タクシーとか、福祉タクシーとか、そういうところとの関連性とか、いろいろと既存の事業者に対してもちょっと圧力がかかるような部分っていうのが、うまくすみ分けができたらいいんですけども、そういう問題もあるのかなと思いますので、ぜひ、まだ国のほうから何らかの形で下りてくるという状況ではないと思うんですけども、その辺、実現する方向に国が進んでるであれば、事前に考えられる問題とか、その事業者にとって何らかのケアをしなければならないとか、そういうことも検討をぜひ進めていただきたい。これも要望です。以上です。

○委員長（太田 智博） 都市整備課さん、要望については特に発言はございませんか。

久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今、委員言われたように、国のほうが検討を始めてるということなんですけど、二種免許、二種事業者が一種の運転手を抱えて、法改正を柔軟にするというようなことを、取りかかったということは聞いておりますんで、それを踏まえて、うちのほうも検討していきたいと考えております。以上です。

○委員長（太田 智博） 大丈夫ですか。

○委員（清水 寛） はい。

○委員長（太田 智博） ほかにありませんか。

須山委員。

○委員（須山 泰一） ありがとうございます。以前、9月議会の委員会でもちょっと求めました免許返納者の乗車賃、運賃の半額化が11月1日よりしていただいて、チラシも振興局に置いていただいて、ありがとうございます。対象者はそんなに多くないかもしれないと思うんですけども、よかったと思っております。

それから、昨日の神戸新聞にアンズケア、相乗りサービス、日高でやってる、あれのことが出てました。事業者、施設が1つから3つになるっていうような。あれについて分かれば教えていただきたい。

それから、僕は詳しくないんですけど、昨日、文教の委員会で言われてました竹野小学校が、警報が出た日に運転手さんがいないという理由で休校になったっていうような話が出たんですけど、その点について、ここの部署の方で、その原因とか、分かる範囲で、分からなかったらいいですけども、以上です。

○委員長（太田 智博） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） アンズケアさんの件は、今ちょっと把握をしておりません。

竹野の海岸線の関係は、今聞いておるんは、運転手さんが登録されとる方が5人おられるんですけども、その中でコアで毎回出られてる方は2人でメインはその2人で回されとるということ聞いてます。今、委員が言われたような何らかのことで都合が悪くなったのかなって、予測なんですけども分かる範囲では以上です。

○委員長（太田 智博） 竹野以外の関係で何かフォローできる方。

芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） 僕、委員会が違うもんで、聞いたとこなんですけども、路線バスと運転手さんが兼ねてて、いわゆる路線バス、絶対時間がしっかり決まってるものだから、ちょっとでもずれると本職のほうに影響があるから、どうしてもそういう危険、そういうことがならないように、もうこっちを諦めるしかなかったみたいな、らしいです。

○委員長（太田 智博） 警報の解除の時間帯のタイミングで。（「路線バス」と呼ぶ者あり）路線バスと兼務されとるんですね。（「ああ、そうですか」と呼ぶ者あり）

当局側、何かご答弁ありますか。

久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 私はその路線バスの運転手の方が兼ねられてるということは聞いてま

せんでしたので、ちょっと確認をさせていただきます。

○委員長（太田 智博） お願いいたします。

ほかございませんか。

須山委員。

○委員（須山 泰一） 先ほど日高振興局のほうでアンズケアさんのことをちょっと昨日お話を聞いたとかいう話があったんですけど、上野参事、もし分かることがあれば教えていただけないでしょうか。

○委員長（太田 智博） どうぞ、上野参事。

○日高振興局地域振興課参事（上野 和則） 須山委員のご指摘のとおり、昨日の神戸新聞にアンズケアさんの関係で福祉モビリティの実証実験の記事が出ておりました。

タイムリーなことに、実は昨日、アンズケアさんの代表の秋山さんからいろいろと協力をしてほしいということで、ご相談とその仕組み等の説明を受けました。まずは、実証実験なんですけれども、やっぱり皆さんに周知していただくことがまず一番大切なことで、どういう手法でというようなご相談をされて、近々でいえば、12月の、たしか7日だったと思いますけれども、日高地域のコミュニティの全体の情報交換会か何かがあるということで、コミュニティさんはそういう福祉関係の部会とかもありますので、その辺のところからちょっと相談を持ちかけてみたらどうだというようなことは振興局のほうからはお伝えをいたしました。以上でございます。

○委員長（太田 智博） 須山委員。

○委員（須山 泰一） ありがとうございます。

そうですね、日高の中でアンズケア利用してるという方、確かに何人か僕も話を聞いたことがあるし、買物に使えるというサービスを利用させてもらったこともあるっていうような話もあるんです。

ただ、会員でないと500円にならないのに使って、もう普通のタクシー並みの料金払わざるを得なかったというようなことも言われて、制度があまり知られてないかなというのもあるし、今後これが有効に使われていくのかどうかは僕はちょっと分から

ないですけども、そういうふうになってほしいとは思っております、一つの足としてね。

また今後とも僕も注目していきたいと思っております。ぜひまたいろんな工夫して、足を守っていただきたいと思います。お願いします。以上です。

○委員長（太田 智博） 意見でよろしいですか。

○委員（須山 泰一） はい。

○委員長（太田 智博） 何か意見に対して特に、大丈夫ですか、ご答弁のほうは、当局側のほうは。

久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今、委員言われました福祉モビリティは、あくまでも実証の実験ということでやっていますから、本格的に回すということになりますと、いわゆる交通空白地でないとできないというようなことがあります。なんで、今、委員言われた会員でないと500円じゃないって、言われとるおりになんですけども、本格的に横展開していこうと思いましたら、今言いました、空白地であるかないかということがありますんで、その辺り、最大の課題であるということは認識しておりますんで、今後また引き続き考えていきたいと思っております。以上です。

○委員長（太田 智博） はい。

○委員（須山 泰一） ありがとうございます。

○委員長（太田 智博） ほかがございませんか。

芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） すみません、全く番外編なんですけども、新しい公共交通で、空飛ぶ自動車について、こないだもちょっと神戸のほうで説明会行ってきたんですけども、こないだの説明会では6つの、丸紅さんとかオリックス、JALとか、プレゼンに来られてまして、商業運航が万博明けから30年の前半にはどこの会社さんもどんどん飛ばしたいようなことで、市長には一度、何か前に、丸紅さんが会われてるみたいなんですけども、その後、市に対してはそういうお話は全くまだないんでしょうか。

○委員長（太田 智博） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 空飛ぶ車に関しましては、今、芹澤委員が言われましたように、関西万

博のときに大阪からその周辺に飛ばそうというような計画があって、その後、その空飛ぶ車を但馬空港なんかには飛ばしたり、あるいは城崎の温泉街の近くのほうに、どっかそういう着陸する場所があったら、そこまで飛ばすようなことができないですかねというお話は、県の空港政策課を通じて市長のほうにはお話がありましたけども、その後はちょっと関西万博で何か飛ばすのも非常に、その機種が製造できないとか、ちょっと実際具体的な話にはなっていないように思っています。その後、空飛ぶ車の話については、ちょっと進展的な話ということは何ってはいない状態です。

○委員長（太田 智博） 芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） 今おっしゃられたとおりで、ちょっと万博の実証実験っていうのは見送るような形なんですけども、もう本当に3年後から5年後ぐらいには実際にこっちのほうにも飛ばしたい。言われるように、空港を利用するんじゃなくて、その地域の理解ができて、買収が済めば、例えばですよ、今の城崎大橋ができます、この東側のどっかの空いたところに、大体40メートルから50メートル四方あればもうそのエアポートができますので、具体的にそういう場所の選定ぐらいまでもういつてる会社もあつたりなんかしまして、何が言いたいかというと、危惧するのは、今JRの赤字路線の問題があつたり、飛行機の利用のこともあるので、またこれ競合する交通機関ができると、非常にそれぞれの存続なり厳しくなってくる。観光にとってはすごいいいんですけども、何かそういうところももう、どうなるか分からないんですけども、早くこちらでも常に情報を得て、やっぱり対策をしていくっていうのを、私たちも情報が入れればより早くお知らせしますし、そういうふうな取組をしていかないと、本当に何かぐちゃぐちゃになってしまう可能性もあるので、便利なものは便利でいいんですけども、ちょっとそういうところを危惧するもので、今後またいろいろとお互いに情報を共有して取り組んでいければなどと思っております。以上です。

○委員長（太田 智博） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 今、芹澤委員がおっしゃってました、JRとの競合ということをおっしゃってたんですけども、現在、我々が思ってるのは、JRのお客さんとは差別化できるんじゃないかと、料金体制がそもそもすごい違ってくると思いますので、ご心配されてるのは分かるんですけども、極端にJRのほうのお客さんが取られたりするということはちょっと今のところ想定してない状況です。

○委員長（太田 智博） 芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） ただ、やっぱりすごい競争が、これ、激しくなっていくと思うので、一説によると、例えば大阪からこちらでも片道2万円で飛ぶぐらいのところまで料金が下がってくるんで、ヘリコプターのもう8分の1とか、そのぐらいの料金で飛ぶようになるようなんで、ちょっと心配したもので、結構です。ありがとうございます。

○委員長（太田 智博） ほかがございせんか。

○委員（須山 泰一） ごめんなさい、もう一つ。

○委員長（太田 智博） 須山委員。

○委員（須山 泰一） すみません、竹野の、今、竹野南の実証実験のことですけど、どうでした、今年度中でしたか、もうすぐ免許返納するという方が接続が悪いと。森本から乗り換えて豊岡に行く際に、今の実証実験で走っているあれは、何ですかね、バスと路線バスとの接続が悪いってことを言われて、今その時刻を調べようとしたら、今ちょっと分からないですけど、そういう声はまだ反映されますよね、まだ実証実験中で、乗り継ぎがこれではよくないっていうような声はまだ、実施期間、実証実験は、今年度中が一応実証実験で、来年度からあれですかね、新しい交通モードなるんですかね、その辺教えていただきたいんですが。

○委員長（太田 智博） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 実証実験で、今年度で2年終えます。実証実験期間は、基本が3年間になってますから、来年1年は実験を続けさせてもらうということで、この間の中で次のモードを準備していかなければならない。今もデマンドなんで、電

話連絡をすると走ってもらえる。ただ、時間は決まって、3往復6便出てるんです。なんで、時間は決まって、その時間に行けば乗せてもらえるんですけど、今、委員が言われました接続の関係は、ある程度は路線バスとのことも考えた時間設定にはさせていただいて、これがもし、完全なデマンドになりますと、時間関係なく、例えばどこどこに、今すぐ来てくれって言ったら行けますし、その場所と時間を特定しておりますんで、その辺についてはある程度のバスとの時刻の関連性は持ったようなことで考えております。なんで、この1年間の中で決めていきたいというふうに考えてます。以上です。

○委員長（太田 智博） 須山委員。

○委員（須山 泰一） そうですね、僕も当然接続は考えてやってあるとは思んですけど、それでもそういう声もあるってということで、実証実験の、もう1年あるということなんで、そこら辺、地域の声をその1年またよく聞いて、地域の人にとっていい制度をつくっていただきたいと思います。以上です。

○委員長（太田 智博） また地域のことは、そういうことは返していただいたらいいと思います。

○委員（須山 泰一） はい。

○委員長（太田 智博） ほかがございせんか。

ないようですので、以上で委員会所管事項の事務概要についてを終わりますが、この際、当局から何か発言等はございせんでしょうか。

ないようですので、当局の職員の方は退席をさせていただいて結構です。ご苦労さまでした。

暫時休憩します。

午前10時14分休憩

午前10時17分再開

○委員長（太田 智博） 委員会を再開いたします。

よろしいですか。

次に、委員会の運営方針についてです。

委員会としては、調査内容を絞り、より効果的、効率的な成果を上げるため、重点調査事項を決めて、それに沿って進めていきたいと考えています。前回

までの委員会で決定しました委員会重点調査事項案をSideBooks上の本日のフォルダーの中に次第等の資料4ページに配信しております。改めて今期の委員会重点調査事項案について協議をお願いをしたいと思います。

確認をしていただきたいと思いますが、まず、1つ目としまして、高規格道路に関する事項、2つ目につきまして、但馬空港に関する事項、3つ目につきまして、路線バス等地域公共交通に関する事項、4つ目、鉄道交通に関する事項でございますが、皆さん、ご意見等ありませんでしょうか。

清水委員。

○委員(清水 寛) 路線バス等のことなんですけど、先ほどもそうなんですけども、実はスクールバスが抜けてて、情報共有が全然できないんで、特にこれは当局側もそうなんです、そういう意味では、やっぱりスクールバスの関係で教育委員会入ってもらほうがいいかなというふうに思うんですけど、どうでしょう。

○委員長(太田 智博) どうでしょうか、皆さん。今回の事象が昨日の文教民生の中でも出ましたし、今後あんまりああいうケースないにしても、あったときに、子供の授業にも影響するので。

松井委員。

○委員(松井 正志) 委員会の目的の中にも、市民生活の利便性等に資する公共機関って書いてあるんで、それでいえば、スクールバスも当然市が運営してるもんだし、それから市民の中に児童生徒も入るから、委員会の目的には合致するんで、必要に応じて加えたらいいと思いますんで、清水委員の指摘は正しいと思いますよ。

○委員長(太田 智博) 芹澤委員。

○委員(芹澤 正志) 言われるとおりだと思いますし、これからどんどんもっとスクールバスも増えてくるし……(「そうだな、統合してくるとね」と呼ぶ者あり) 増えていきますんで、いいんじゃないかと思います。

○委員長(太田 智博) 私から1点、ちょっといいですかね。この3番の路線バスのことの部分の市内

公共交通網の充実及び利用促進に関することってもう書かれてるんですけど、この文章で、今いろんなバスの路線の問題だとか、バス路線廃止の問題が結構出てるんですけど、この文章でそういうの全部まとめられるような文章なんですかね、これ。何か僕、バス交通の充実と利用促進みたいな感じで、もっと具体的にバス交通とかで出すほうがいいような気もするんですね、上が、3番が大きく路線バスと書かれてる部分になるので。何かもう3番に路線バスって書かれてるので、そこまでこの丸の部分を具体的にしなくても、こういうちょっと抽象的でもいいのかなって、その意見を一回聞きたいなと思ってたんですけど、どうですかね。

清水委員。

○委員(清水 寛) すみません、太田委員長がおっしゃるとおりなんですけども、多分路線バス等の「等」の部分っていうのが結構含み……。

○委員長(太田 智博) 含みがあるね、そこに。

○委員(清水 寛) 特に今いろんな交通モードっていう中で、さっきもあつたんですけども、いわゆる福祉タクシーとか、そういうものもこの中に要は含まれてるんですね、地域交通っていう中に。なんで、もうちょいそういう意味では公共交通だけ、ぼかしてもええんちゃうぐらいな感じには逆に思えるぐらい。

○委員長(太田 智博) ぼかしたほうが幅が広いんですか。

○委員(清水 寛) そういうことです。

○委員長(太田 智博) 了解しました。

松井委員。

○委員(松井 正志) この3番の大きいタイトルと下の丸のところを比較してみると、上のほうが限定的なんですわね。

○委員長(太田 智博) そうなんです、そうなんです。下が抽象的になってるから、そうなんですよ。

○委員(松井 正志) ここは反対だわな。(「入れ替えたほうが」と呼ぶ者あり)

○委員長(太田 智博) だが、何かさっき抽象、ぼ

やけるほうが幅は広がるんですけど、これでいくと、何かバスの関係がこれは詳しく言えないかなと思うんで、逆でもええかも分かりませんか。丸を3の題名にして、3の題名を丸のほうに持っていくほうがというような雰囲気ですかね。

松井委員。

○委員（松井 正志） 路線バスは下のほうに持ってくとして、3番の地域公共交通に関する事項にしちゃって、上を、3番を。

○委員長（太田 智博） あっ、上、頭消すね、ちょっとね。

○委員（松井 正志） うん。地域公共交通にすれば全て入るんで、そのうち、特にその中でも路線バス等市内公共交通機関の充実及び利用促進に関することとか、スクールバス等を入れるかは別にして。

○委員長（太田 智博） 丸が、でももう1個入って、スクールバスっていう文言入れたほうがええかも分かりませんか。

芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） そう思っていました。せっかくスクールバス入れるんでしたら……（「あえて出したほうがな」と呼ぶ者あり）丸を2つにして、それはそれで同じほうがいいかなと。

○委員長（太田 智博） のほうが、ここでやっても、スクールバスという文言が出てこなかったら、ちょっとぼけちゃうとがありますね。

○委員（芹澤 正志） せっかく教育委員会が入ってくるのに。

○委員長（太田 智博） ほか、委員の皆さん、特にございせんか。

事務局、今の感じでよろしいですかね。また教育委員会の方にも入っていただくと、大変。

○事務局次長（坂本英津子） はい、相談してみます。スクールバスのことだけです。

○委員長（太田 智博） はい。

○委員（芦田 竹彦） 文言はちょっと検討ね。さっき、あっ、いいですか。

○委員長（太田 智博） 芦田委員。

○委員（芦田 竹彦） 言われたように、地域交通と

公共交通にすることでもうぼんとやってしまって、丸出しを、さっき、1つ追加をして、スクールバス等の利用促進に関する、何でもいいですけど、その文言はちょっとまた確認していただきたい。

○委員長（太田 智博） 分かりました。

文言についてはまたちょっと正副委員長のほうで対応しても結構ですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（太田 智博） ありがとうございます。

特にほかなければ、ありませんね。

特にほかにないようですので、このように決定をしたいというふうに思います。文面につきましては、正副委員長に一任をお願いをしたいと思います。

次に、（3）番、その他の委員会の席次についてです。

本日は、会派構成に配慮した形で着席いただいておりますが、ご意見等ございますでしょうか。（「結構です」と呼ぶ者あり）ないですか、今のままで結構ですか。（「ああ、はい」「えらいためが」「どう、そっち行く、そっち行く」と呼ぶ者あり）何か横、須山さんが気になりますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（太田 智博） 特に意見がないようですので、このように決定をしたいというふうに思います。

そのほか、この際、何かご発言等ございますでしょうか。

ないようですので、以上をもちまして委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前10時24分閉会